

入院の子 芸術で笑顔に

入院中の子どもたちに本物の芸術を。小児病棟にプロのマジシャンや音楽家を派遣するNPO法人「フレイリングホスピタルジャパン」（東京都杉並区）が今月から活動の場を広げる。横浜市内の病院に加え、十一日から新たに日赤医療センター（渋谷区）でも、芸術に触れ合える時間を子どもたちに提供する。代表の松本恵里さん（よ）は「定期的な訪問が病気の子どもたちの励みになる」と意気込んでいる。

（小形佳奈）

NPO代表 松本さん

プロの音楽家ら派遣



松本恵里さん

り。その中に自然とどけ込む松本さんの姿があった。病院内に設置された学級の教師として、八年前から都内の病院で中学生らに英語を教えってきた。小児病棟で白血病や小児がんなど闘う子どもたち。慰問に訪れるスポーツ選手や芸能人に胸を躍らせる様子をよく目にしていた。

英語でやりとりを重ね、日本での活動を託された。派遣する芸術家や受け入れる病院は教師仲間の紹介で探した。昨年三月に退職。ほどなくして活動を始めた。週一回二時間ずつ、神奈川県立子ども医療センターを訪

入院中の子どもや付添いの保護者の前で手品を披露するマジシャン（横浜市の神奈川県立子ども医療センターで

「笑顔いっぱい咲かせましょう」。横浜市にある神奈川県立子ども医療センターの五階西病棟。ピアノを奏でる音楽療法士の歌声に合せて、集まった幼児七人が一緒に手を

たたいたり、歌った。ただ、出会いは一

人を一らずつ交代で派

遣し、自らも立ち会えてくれれば」と期待を寄せる。

昨年十一月にNPO法人化。日赤に働き掛けた。十一日から月一回、入院病棟を訪問する。病院の担当者は「芸術活動のボランティアが入るのは初め。子どもたちが楽しんで、子どもたちが楽しんで」という。

きり。「継続して楽しめる企画があれば生きる力が湧くのでは」。そう考えるようになった。

一昨年夏、アーティストが入院する子どもたちと交流するハンカリーの団体スマイリングホスピタルを知った。二〇〇四年に設立され、インドや中国にも拠点がある。

活動資金は企業や個人からの寄付が頼り。「子どもたちの笑顔が給料」と松本さん。付与。病棟の担当者は「ききょう母親たちの表情が、見事な手品やピアノの音色で和むのもうれしい」という。